夫木和歌抄

巻十五

へ利4
1765
15

132

門へ納め
帳 1765
巻 15

670

文永和歌抄第十五

秋部六

秋山　檀　萬

檀　薜

蓋秋　九月盡

椈　柞

桐　櫨　楢

紅葉

671

秋山　三首

治承二年右大臣家百首　皇太后宮大夫俊成

秋山のこずえの山もうすみどりせちかはるもそうしとなる

建保四年百首　前参議雅経

霧たちのぼりけるかたらふのあけぬるのあけぬるの山もかすみよりて

永久四年百首　秋山　仲実卿

風こそのあけぬるの山もあらはれいつるものとはよもうらもうち

洞院摂政家百首　紀兼経　法二位家隆

あきのうちにくれぬるかとの山もとのもみぢ

同百首

ありまさ[illegible]日をくれたるよるあのまくらをみちをうら

[illegible]ふ和　　[illegible]

[illegible]れいとく寄ものあくをてみやこのゆかりとつきぬん

[illegible]

人麿

かりとすれば、わかれしものの、ほりをの、こゝろ紅葉の散

家集或西行　　恵慶法師

きりをこゝろにこゝろをこゝろわかうゆふ山越ゝ陸ゝ人めをみるにたて

建久三年九月十三夜左大臣家

前中納言定家卿

おのれのみ秋とはいはじ[illegible]

建保三年名所百首　同

いこま山わしの山ゝ秋の色ゝ玉秋下

四治二年仙洞十首合歌　同

秋の色をみちてゝ[illegible]

貞応三年四条百首　民部卿

[illegible]

百首歌　　[illegible]法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

惟貞親王家六百合　よしひとしす

日ぐらしのなく秋山にくれいそぐ　[illegible]

二百年首中

[illegible]すと秋の山のゆうのゆうの[illegible]

家うた年毎日百首中秋六

民部卿

[illegible]

[illegible]

清輔朝臣

[illegible]

七百首中

[illegible]

接信正名

萬一三行[illegible]

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

694

六百番歌合　冬

玉葉下

ふるさとのしらけのあけぼのはるかなる　あき　このなかの

一百首　紅葉　　藤原雅経朝臣

やまうどのさくらのはなのさかりにも　ちるこのはをとまりけるかな

建久四年十二月内裏百首歌

冬　　藤原俊成

ねやのうちにこのすがたこそうとけれ　気近　ちりくるひとのこえのみ

建久四年一百首歌　　二条太皇太后宮　宮藤の

山里のむすのうきたちてはるのそらにつるのこえ　いろ　たのみてはなの

洞院摂政家百首歌　　従二位藤隆朝臣

新続古歌

ふるのいそしのあとのはるのあさぎり　や　跡

建久四年六月内裏百首歌　　従二位家隆朝臣

ふるのやまのはるのあさぎり　都　お　せ

六百番歌合　春

あしの屋のつくるかりの村河　お　ゆくてはなさくれそ　いろ

　　従二位藤隆朝臣

ちるみまはつるかりのあとのこのしたかぜ　青葉　ちる

　　従二位家隆朝臣

ちるぬるわをたれかいろのつばさかな　色

　　西三位実宣朝臣

695

[illegible]

洞院殿御百首紅葉大納言通[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠き八年百首奇合 光俊朝臣

[illegible]

正嘉二年毎月百首中 藤原為家卿

[illegible]

文永二年毎月百首中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

676

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かるさわの秋のつゆ　小枝

家集秋二十中　拾遺古今歌

やまぢのうつろふけてかはつくるそのうちそよいてゆく

常盤井入道太政大臣

夕日さすのやまぢのいろそめくるそのかはかぜてすゑのあさかぜ

民部卿為家卿

弘安二年内裏百首　安嘉門院四条

おもひよるそのうちすゑの河ぎりもいそのうえん

秋地儀

いろもうつるそのうちすゑの一ふちのあさぎりのあさぎりの

桑波為相卿

永仁三年九月為相卿歌合抄

あつまぢのうつるぬまのうへのかぜ　有家為家

寛治二年百首　河辺紅葉

ちるもうたがひなしいそのかはのくれなゐ

新六二

秋部

あつまぢのうつるぬまのうへのかぜ

伝二条為氏

民部卿為家卿

月

ちるもうたがひなしいそのかはのくれなゐ

四条隆親

中務卿宮惟康

[illegible]

森

六二 山ちのいろのもり吹くそよいろ秋さよ出るつり

紀帝女

[illegible]

武の人々宮仕

方九 山ちのいろのもりそよこゆん

新古 山ちの

4 櫨 櫨

三行ト人ん

百首歌

呪法院前関白

百首歌 [illegible] 秋

文治二年毎日百首中 武の人々歌卿

あきかせ

あらし山ちるもみぢのもみぢ紅葉にひとり秋しかぬ

[illegible]

同

[illegible]

寛元三年結歌経百首 同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言

[illegible]

秋の中 [illegible]

法華下実伊

百枝

あらし山河あり[illegible]

[illegible]

[illegible]

699

六条人法うつうの　西行上人

山ふかみまとのつれくさ物はかつさそむしたちのうら枝

檀　一　三行ふん

後拾遺

りつてのいそのさゝふ河毎てうひさゝ紅葉ふ

うのうさいたるうゝの山さとは霜うちさゝしの

うけふのわりてあるひろにまあこのりもち

をんてゝあるとゝ

五行二字空

不審百首歌者所

あしかこのさゝあのうけうの色河あらいやまあこの紅葉

拾遺新後百首　戸

みのゝひさゝあまこすあらしの紅葉

よりうしたゝ

夏　葛城

かつらゝのうひさゝあはさあとこのゝやまうつゝ

百首ウ

ゝけさゝれまあのみちうさゝ色ゝ細ゝ

古歌

人ふれてのゝち志ゝ

秋中

とすつてゝうさゝまあこの

後拾遺

西三條院和歌

常淵

ゝうのうそうまあこ

和歌式ア

680

[illegible]三年一百首　　法九条内大臣

[illegible]垣[illegible]

久安二年三月十三日内大臣家歌合　紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]六

[illegible]

[illegible]檀

[illegible]

[illegible]

[illegible]

681

[illegible]

[illegible]

建長四年毎日一首中 秋夜 民部卿為家

[illegible]

建保二年 秋五十首 合 秋夜

大納言通具卿

[illegible]

[illegible]

4 紅葉 一三折紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥一中

真寂法師

そまのひとそつのとさしとかるまきはの杜鵑おのれらん

六百番哥合さうあ　中文拾遺家房卿

はるかすみ色ぬひそのりのうへに紅葉ふくへてもらすよそは名れ

光明峯寺入道摂政家百首右寺紅葉

大納言有家

うゝこくんすわけのうつの杜のやしろすゑもとやく紅葉をよう

建保二年名所百首　法二位家隆卿

あ西の秋わゝうひりて松風もすゑすゑ杜そしるみ

をかゝさりつゝるのひかもちうふゆあらんくさいはしもとうまし

みちつな

紅葉門院

やまの河ゆ　ゆ

ゆ　ゆ

ゆ　ゆ

百首歌

水無瀬院御製

[illegible]

文治六年六社百首　皇太后宮大夫俊成

二条院讃岐　同

仁安二年八月経盛家六合紅葉

右京兆伊行

紅葉[illegible]

歌集中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

684

百首の中

月

[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

685

建長四年二月の合　源経平朝臣

[illegible]

仁安二年経盛卿家合　清輔朝臣

[illegible]

紅葉

源雅重朝臣

紅葉　菊宴　源親盛朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

636

建保三年九月十三日 内裏仙洞歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

嶋もとの枝のひくきのこゝろにてやまの雪のとけぬと

建久八年百首歌奉　月

ちたいて〳〵枝のこすゑにうつりゆくひの影ぞさびしき

従九条内大臣家百首奉合

法眼宗伊

石向霜かりのすさびてとくれぬるこのゆふべのおもかげやまの紅葉

文永七年十月十三日紅葉合　従九条内大臣

日をさゝのゆふべの山のゆきあひやあかぬ色ぞ時雨ふるらん

拾遺新撰百首　月

きのふのゆきのとけぬるかゆふべの山

従三条内大臣

枝ぬけてあらすすもとにゆきのこりやとけぬる雪のあとの

大治三年八月廣田社奉合　紅葉

従二位為房卿

いとしくてかりそめにゆきのこりてあるのこゝろ

永嘉門院入内三条親定家卿女十首紅葉

従二位為房卿

内裏つゝ木すゑにかゝれてくれなゐのこゝろ

文暦院入内三条のみさ

ちゝのそらゝのもゝちをのれやくれなゐをかしらん

688

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

合八百番歌合

[illegible]

歌集紀氏

[illegible]

天長二年四月廿八日歌合紀氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

690

舊イ

似雲抄

春のうたにさくらのはなのもとにて

洞院摂政百首紀家 円

みよしのゝうゝひそめしより年をへて

やまびと

花々ゝ

ゆきのかゝるもとの波ゝかなそよそゝあれの日数よりそゝかる

つゆ

文永元年七社百首仁勢 円

春たちてはるかすみしかぬ神垣のこのしたもいろをうつゆく

やま

石清水

円

やゝ山もこゝろをぬさとあてぬさたかきとりくあの月の比

円

日吉

神山のすさまじのもとにて嘉家卿よれ山のもとにて

円

伊勢

すゝこゝしのあけの玉ゝきひとゝの名よもゝゝ岸の松のゝ

たゝ家卿入道補々

松間紅葉

伊勢のまつのあしさまのゝゝゝ

洞院摂政百首紀家 大納言経通卿

神なひのあさゝうゝ紅葉ゝゝ

伊勢二位家隆卿

なをゝめこゝもゝゝの家折ゝゝれ神なる山の秋のあゝき

二十

法二位殿御歌

ちはやふる神のいがきもこえぬべし
ときわかぬ紅葉ぞ
法三位行能卿

まつのとをこすゑのをちかたにてあきの神いかきこえぬる
宮内卿

唐錦きみがよはんとやまのうちもいろまさるかな
仁安三年十月十日合判名所歌合

紅葉

やまのうちもいろまさるかな
従二位行家

ちはやぶる神のいがきのひとへにもこえぬべしとは
藤原為家朝臣

もみぢすなるやまのうちもいろまさるかな
常磐丸

いろまさるやまのうちのもみぢかな
藤原為家

ちはやぶる神のいがきのひとへにもこえぬべしとは
藤原為家

唐かきもたゆるおもかな
三百六十番歌合

秋の月
ちはやぶる神のいがきのもみぢかな
後鳥羽院御歌

ちはやぶる神のいがきのもみぢかな
紅葉賀

692

[illegible]

村雨の河原に紅葉を合せる

[illegible]

紀伊の国人のわりなくもあるかな

[illegible]

陸奥の信夫の山の中にて海すれば紅葉

[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

第六帖を経信に

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集紀ゆきとうて　月

[illegible]　[illegible]　[illegible]

家集秋中　月

[illegible]　[illegible]　[illegible]

紀ゆき百首　源仲正

[illegible]　[illegible]　[illegible]

家集海辺　秋

あきのすゑいその山をこゆるとを源よめるそのもとの

白河にて山のもとを堀川左大臣

[illegible]

新拾遺雑上

[illegible]　[illegible]　[illegible]

きくて　月

百首中

[illegible]　[illegible]　[illegible]

信都源伝

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

久安百首

[illegible]

新拾秋下

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

694

けさうんいんうつくしきのこと

千五百番歌合　　前中納言定家卿

うちひさすみやこのはるのかすみ

建暦三年九月弾正尹歌合　　法性寺入道関白家三海

くれなゐの八しほの色のもみちとは

仁安二年八月住吉歌合　　法橋顕昭

ちはやぶるかみのいがきにしめゆふ

秋の夕　　前大僧正慈円

秋のきりぎりす

洞院摂政家百首　　前大僧正

つれなくみえしの色の

正三位知家卿

秋の夕

秋のきりぎりす

永久四年七月忠隆歌合　　前大僧正

唐錦

新続古　秋下

693

寛喜二年一位百社奇合歌百首

寄花法師

ちるれてすりもとちのかすてきゆきにわけてとうむこえのこの

摂政為円前参議為家卿

やま

ひと

ひと

西行法師

家集

名

名をとりかこのもとちのうつりけはなすゝ鶯とこえよ

底

ゆきとすゝ

ようこそとすゝ

拾遺

いかりの山ありとめくるのもちて秋はうとするあけの

玉

光明院入道二条の内

寛治二年一百首

うつりゆく日数をいつ日もいとなくとしのもとの

行

安楽門院家

森

やよやまてこの海ふりもちにうきもとしのうち

平枯

寄山恋

伝兄

りう

りう

色もこのうつりはてぬ秋の月

の枯月

の

696

従二位藤氏々

紅葉

森の落葉のうつろふ時雨やいろとそめなん

歌集紅葉の中　　西三位実隆卿

紅葉

紅葉をよそにうつしてひとしきりしぐるる雨はのちのいろ

紅葉

紅葉をよそにうつしてさとりてきれりかなたの

寄山時雨　　前内大臣

遠保三年内大臣百首　同

紅葉

紅葉をよそにうつしてさとりてきれりかなたの

洞院摂政前太政大臣百首　　隆祐卿

紅葉

紅葉をよそにうつしてさとりてきれりかなたの

紅葉

紅葉をよそにうつしてさとりてきれりかなたの

紅葉

紅葉をよそにうつしてさとりてきれりかなたの

697

五

同会合判歌

祇園別当

きよみこゝろやすむよゝ深山もとまちてこそ月をみるらん

あつまへくだるよ

安嘉門院四条

ちとせをかけてなみたちぬ

ゆくひるはかりまちぬとそ思ふ

むらしてはなれなくれなるあしくら

くらの深くこそ思ふ

二安下

嘉安二年法後白河院御百首歌合

雅法師

ちやまとそうのとこ

ちとせまつ

ちとせまつ

法玄法師

永久四年八条入道左大臣家歌合

中院入道右大臣

そのかとをとのの山ぬとのの山ぬ

紀貫之歌

西行法師

いとゝ山ちかくなれはやまかせもとゝろかすみてきこゆ

後拾遺

家集紀貫之

やまとなるあさ夜のこゑもはらへてとゝろかすなり

同

家集拾遺中

ちとせゝかすみのそのをとゝろくこのしたけのくもの

遠保四年家六合歌々紀貫

之

こゝろなりてゆきかのかの原のもゝちへいまもはらへし

光後拾遺

高陽院三年百首

ゆきとのあるゝ川はゝ

遠保七年歌合千首中 紀貫之

後拾遺

海さりくのひとりこまりの高紀貫之

汨院殿歌百首 常盤井入道太政大臣

この里とつきて河あやそめつゝいと西のとの松のうち

後九条内大臣

こゝろ山のうゝの松のもゝちもゆくそこゝろ

摂政家百首

もゝちゝのよいてきりとゝろの河とゝそのの

松やゆらん

698
432

南 番イ

右山百六十合　　権京極殿政

続古秋下

見うしなはぬ雲ゐのつきのかげとひとりぬる宵のとこちかな

源頼実朝

やま

嵐葉紅葉

うしの山とこちかなら我さうのこすゑのもみぢそ秋風そふく

寿和

建長八年百首合　第六紅葉　肥後々

まつ山のこしたもみぢのちるなれはあらしのそこらさ

右近中将経家々

寄山中紅葉

仁安二年八月経盛家百首合　肥

たかきこゑもあらしの山のもみしてもみはよりはのこるこのしたもみぢ

左中弁為親々

699

四三

四八

四九

為自山ふもとのもみちをとはいはしもとのこすゑをまてとはしらしも　四

洞院摂政家百首　紅葉　光俊卿

あさ日山あしもやそこいそめんもみちはつひしらの

内裏歌合　紅葉　摂政家　第中納言家々

もみちはの　猶うつ

建保四年百首　同

いつこゝろ日をくれぬのこゝろ　菊

ふるさとのもみちの山はたのりこちえ

貞和元年百首合　紅葉　後宴歌

佚宴歌

なりつるこのもとにちの山のことしよそのあさぼらけ
　　弥生
　　三条人さうこ
あまをちのこゑのうちひとれいかう月のもとの山をうらひよりう
　　白三位知家
ふるさとの中うつ秋のもとにちりやちらぬこゑ
　　遠もとの三年十さ三年合行語紅葉
むらこのゆふ〻ぬさの初河原紅葉のうけとるかはもとうき
　　家集ハ紅葉のうけとるかはもとうき
秋のゆもとの山のもとにちる葉ハ月つの里のちらし
　　前左兵衛督雅宣
　　百首哥　秋山　三イ
むけすもとにちよあるうこ山つうの雲とあらし
　　紅葉を枕
村河原ゆうにめうこ山ちわのの里の紅葉とそ
　　稲荷行幸河
いうう山すきの紅葉きそこれてくあ原ちるあきう
　　関白内大
ちあ代のこのこひうつ
　　俊成卿
山ハ一ハあうこ
　　紅葉
いうこの里うて山人のこのいう
　　進
よもちをうてこうう

1901

[illegible]

遠き八年百首歌合　寄星門古

荒野

[illegible]

拾

大原のうて関路の[illegible]

大原伊家

関路の山

新古神祇　猶

いまもなほうらうてかけのもちのしたの山風

吹

[illegible]

関路の山

続拾神祇

[illegible]

中納言家歌

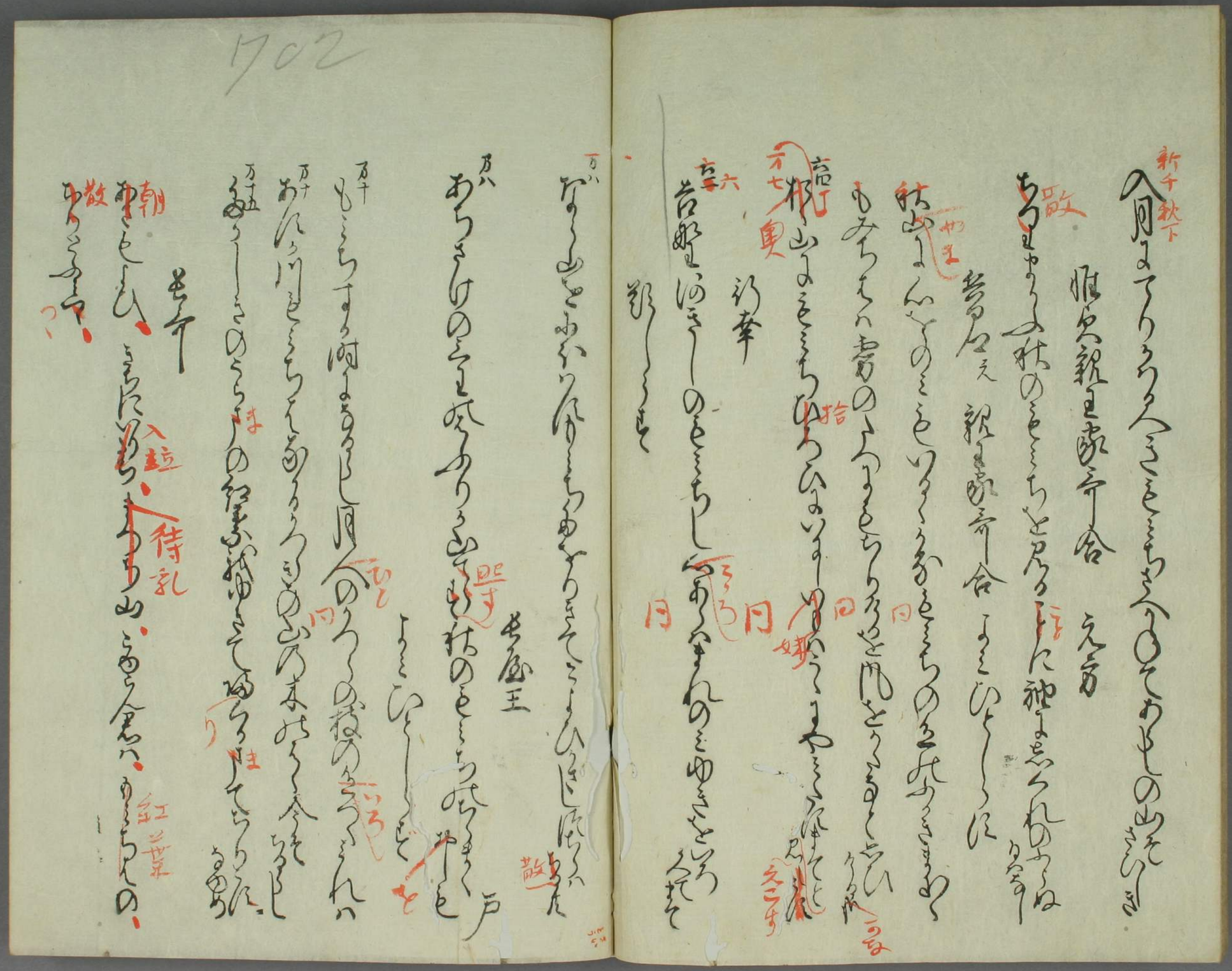
六帖　家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

1702



4 雲林院 三月十九日

建保四年百首　家中納言定家卿

ひさしかりしかりのつゆもはらはれておもしろかりしよわのこゑ

同

文治三年百首

あのうしの野べのこゑのうしてきくさしのすゑのつゆ

同

元久百首

ながらへぬ

ふれのはやしのあきのあさぎりのうらみ

同

或抄中

あす

はやゆきぬ

同

建久九年仁和寺百首

同

ひとりきくひかりのこゑのあはれとしらるるこゑ

定

建久百首中

同

つきのこのもの

いる

ひとりのこのはのこゑ

拾遺集雲林院

後京極摂政

定

ながめしはすぎのあきのあさぎり

家隆卿

彩六

ものすごのあきのあさぎりのこゑ

彩六

秋の月のあかつきのあさぎりのこゑ

同

建久三年百首

同

すぎのはのあさぎりのこゑ

建久三年百首

同

ものすごのあきのあさぎりのこゑ

秋六一

いとゝふもとの心はありとゝ人はいとゝうとくなる秋はあきの

六百首歌合 寄月 秋

秋續古秋下

なゝ月の月もあとゝ消よなるとぬまに秋とくれそうゝ夕べの雲

法橋顕昭

行とゝ秋くれぬといとゝ初しゝ人はよしゝ

第六御所 寄月

なゝ月のあるはの雲とゝてのちて秋のとゝくれのそてはいとゝなる

建仁元年九月十三夜撰歌

藤原秋房

おなじ月のてはもいとゝ月のあるはの雲とゝ人は月はとゝ

正治二年百首

第の秋とゝ月の月はとゝ月はとゝ月の雲

秋四十中

いとゝ中とゝ渡つくとゝ月あとゝ

四宝集

とゝ月とゝ

とゝ月とゝ月の雲とゝ月はとゝ月はとゝ月

建仁元年七月十三夜

藤原秋房

おなじ月の秋とゝ月はとゝ月はとゝ月

いとゝ月の秋とゝ月はとゝ月はとゝ月

705

建暦三年は九月内裏にて合せられし
歌合の中に
あえの三年仙洞にて合 第中納言為忠
百首
二条院四条
二条院讃岐
雅経卿
二条院讃岐
二条院讃岐
二条院讃岐

706

[illegible]百首文字[illegible]白絹景

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋はぎ

秋はぎのうつろひゆくすゑの浦を

正治二年百首　　四三位経家卿

秋はぎのうつろひゆくすゑの浦を

かるるあき

拾九月盡　　民部卿

なれきつる秋さりぬるつつのうつろひやすさ

建久二年百首　　亀山院御製

秋のこいろの月けてすきぬるのうつ一夜のりけそ

建保三年百首　　順徳院御製

あはれいとあはれのこすまの川のもりのうこの秋のまやのこいろん

同四年百首　　後二位宰相

ふる里や色いあはれのの海風にいろうすくにろ衣うれ

承久二年鳥羽殿百首　　大納言隆房

うのこのこと色秋てこれわらの山のあしのこうこんをしらて

千首寄　　民部卿

これてゆくこいさやこにんてひこ入ひのこよ秋てつきのろ

文治二年九月十三夜　　光俊朝臣

文治四年九月十三夜　　光俊朝臣

秋ぬいのあきてかさるこうこ世ひこうのこ世ひこ

百首 寄毎人情秋　　従二位行家

すゑつゑ毎のよさひさとうつりかはりやあきのもとうれしきはらん

建長八年百首 合　　信実朝臣

人なりとさいりとさのさいりとさ

千五百番 合　　従二位雅経卿

ちりはてしこのはのうへにあらはれてこまの秋のあれにけり

久安百首　　前大納言隆季卿

つりてしよりけりゆくえのはねん秋のはつ花のちらしめら

百首 合　　藤原知宣

秋ちさ

稀と見とゆきあひの関りはいかのたりにあきやとらん

夫木和歌抄第十五　終

7003